

審査の結果の要旨

氏名 安達 奈穂子

本研究は、口腔の健康状態および口腔関連 QOL とメタボリックシンドロームのコンポーネント有無との関連を明らかにするため、労働者を対象とした 1 年間の追跡調査を実施し、定期健康診断および特定健康診査、歯科健康診断、質問票データを用いて検証したものであり、下記の結果を得た。

1. 筆者は日本のある企業において 2015 年に質問票調査を実施し、2015 年の歯科健康診断データ、2015 年および 2016 年の一般健康診断、特定健康診査データを取得した。
2. 横断分析として、2015 年の歯科健康診断を受診し質問票に回答した 617 人のうち満 35 歳以上かつ欠損値のない 370 人に対し、歯周炎、う歯、喪失歯、DMF 歯（う歯、喪失歯、処置済み歯の合計歯数）、GOHAI（口腔関連 QOL）に関するロジスティック回帰分析を行った。単回帰分析では、喪失歯とメタボリックシンドロームのコンポーネントに関連がみられた（オッズ比 (95%信頼区間): 1.92 (1.25-2.95)) が、性、年齢、BMI、喫煙、飲酒、遅い夕食、夜食、朝食抜き、中等度の運動、軽度の運動、睡眠、学歴で調整すると有意な関連は消失した。他の口腔の指標には有意な関連は認められなかった。
3. 縦断分析として、横断分析対象者のうち 2015 年にメタボリックシンドロームのコンポーネントに 1 つも該当しない者を 1 年間追跡し、欠損値のない 136 人に対し、歯周炎、う歯、喪失歯、DMF 歯、GOHAI に関するポワソン回帰分析を行った。ベースライン時にう歯がある者は、共変量で調整しても、翌年にメタボリックシンドロームのコンポーネントを 1 つ以上有するリスクが高かった（相対リスク (95%信頼区間): 3.25 (1.59-6.63))。他の口腔の指標には有意な関連は認められなかった。

以上、本論文は口腔の状態を総合的に検討し、う歯がメタボリックシンドロームのコンポーネントの罹患リスクを高める可能性のあることを明らかにした。これは、縦断的な報告としては最初のものであり、う歯とメタボリックシンドロームに関する知見の蓄積に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。